

スクール（学校）ソーシャルワーク演習

[演習] 第3学年 通年 選択 S S W必修 1単位

《担当者名》 福間 麻紀 m-fukuma@hoku-iryo-u.ac.jp 栗田 郁子（非）

【概要】

本科目は、スクールソーシャルワークの相談援助技術について、基礎となる理論・知識を理解したうえで、事例研究やロールプレイを通して、実践的に習得する。

特に子どもと子どもを取り巻く環境とそこで生じている問題を理解するためのアセスメント技術と、実践的に有効な支援計画を立案する能力の習得を目指す。

【学修目標】

- ・子どもと子どもを取り巻く環境とそこで生じている問題を理解するためのアセスメント・プランニング技術を習得し、各自が事例に基づいて、ミクロ・メゾ・マクロを考慮したアセスメントと支援計画を作成できる。
- ・事例を通して支援に必要となる法律や制度、教育・福祉サービスを含む社会資源の理解を深め、それらを実践的に活用するための方法を検討できる。
- ・教員や教育関係者、行政担当者等の他職種の役割や機能を理解し、子どもと家族、学校、地域社会を含めたチームアプローチを検討できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション S S Wとは何か	授業内容・進め方のオリエンテーション。 スクールソーシャルワーク(S S W)の概要を説明できる。 ソーシャルワークの価値と倫理、子どもの人権について説明することができる。	栗田
2	学校が抱える課題	学校におけるソーシャルワーカーがどのような役割を学校、家庭、地域に対してもっているのかを説明できる。 学校のもつ社会資源としての可能性と課題を説明できる。	栗田
3	学校ソーシャルワークの支援方法1 (アセスメント)	学校ケースマネジメントの展開を説明できる。 スクールソーシャルワークにおけるアセスメントのポイントを説明できる。	栗田
4	学校ソーシャルワークの支援方法2 (アセスメント)	事例を用いて、アセスメントシートを作成することができる。	栗田
5	学校ソーシャルワークの支援方法3 (アセスメント)	事例を用いて、ジェノグラム・エコマップを描くことができる。	栗田
6	学校ソーシャルワークの支援方法4 (プランニング)	事例を用いて、支援計画シートを作成することができる。	栗田
7	不登校の子どもへの支援	不登校の事例を検討し、アセスメントと支援計画を作成することができる。 長期目標、短期目標を設定することができる。	栗田
8	校内体制への支援	ケース会議を活用したアセスメントと支援の方法を説明できる。	栗田
9	児童虐待を受けている子どもへの支援	児童虐待の事例を検討し、アセスメントと支援計画を作成することができる。 アセスメントと支援計画に必要な情報を整理分析することができる。	栗田
10	家庭への支援	家庭への支援が必要な事例を検討し、アセスメントと支援計画を作成することができる。	栗田
11	学校におけるチームアプローチ (ケース会議を用いたチームアプローチ)	事例を用いて、構築が必要な校内体制の発見、具体的な校内体制づくりの手法を学ぶ。 校内ケース会議の実際を視聴し(映像教材)、ケース会議におけるソーシャルワーカーの役割と視点について理解する。模擬事例を用いてケース会議のファシリテーションを行う。	福間

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
12	教育行政へのアプローチ	スクリーニングにより子ども・学校のニーズを把握し、事業としての実施計画を立て、教育行政へのアプローチを含め他実現に向けての具体的な行動を学ぶ。	福間
13	子どもを取り巻く地域の状況理解とケース会議を用いたチームアプローチ	地域アセスメントに必要な視点と枠組み、地域の社会資源の強み・弱みを理解し、他職種との連携に必要な視点を学ぶ。 ケース会議を用いた地域の専門機関、関係機関との連携について、ケース会議の準備と運営、関係する制度や法律を理解し、会議の進行を行う。	福間
14	地域における相談支援体制構築へのアプローチ	子どもや学校のニーズを充足するための、地域の関係機関や地域住民の活用、連携の方法について、実際の場面を想定して検討できる。	福間
15	記録・評価の方法 スーパービジョン	記録の具体的な手法とそれを基にした効果測定について事例から理解する。 地域におけるスーパービジョン体制の意義と手法を理解する。	福間

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

レポート70%、グループにおける参加度（意欲・姿勢）30%

【教科書】

日本社会福祉士会編集『学校 家庭 地域をつなぐ 子ども家庭支援アセスメントガイドブック』中央法規出版(2023)

【参考書】

門田光司・奥村健一監修『スクールソーシャルワーカー実践事例集～子ども・課程・学校支援の実際～』中央法規出版（2014）

日本学校ソーシャルワーク学会編『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』中央法規出版（2008）

他の参考書は講義内で紹介する。

【備考】

スクールソーシャルワーク教育課程では専門科目群「スクール(学校)ソーシャルワーク演習」に該当する。

教職課程では、「大学が独自に設定する科目」に該当する。

【学修の準備】

- ・次回授業で使用する事例にてでくる用語や制度等について、事前に調べまとめること（30分）。
- ・授業後にテキストや配布資料をもとに事後学習を行い、技術の習得に取り組むこと（30分）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2：福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP1：人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。

DP3：社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

DP4：保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

DP5：多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力を身につけている。

【実務経験】

福間麻紀（社会福祉士）、栗田郁子（社会福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

教育機関におけるスクールソーシャルワーカーとしての実務経験を活かし、貧困、児童虐待、不登校、いじめ、非行などの子どもを取り巻く状況が複雑化・深刻化している現状において、問題解決に有効な支援の基礎となる姿勢、知識、方法等を事例研究やロールプレイ等の実技指導を用い、実践的な教育を行う。